

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	九州大学	整理番号	J03
プログラム名称	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成		
プログラム責任者	久枝 良雄	プログラムコーディネーター	安達 千波矢

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、プログラム開始当初は、過重なカリキュラムとなっており、学生、プログラム担当者の双方にとって大きな負担となっていたが、プログラム内容の精査による大きな改善及びプログラム担当者の負担の軽減・均等化などの体制整備も行われた結果、履修生の本プログラムへの満足度は極めて高いものとなっている。特に、本プログラムの中心と位置づけられ、学生が主導的に行うグループリサーチプロポーザル（GRP）と9か月の海外武者修行は、いずれも学位取得のための研究との二重負担と考えられるが、履修生は貴重な経験として高く評価している。また、本プログラムの柱である「分子システムデバイス科学」は当初比較的狭く捉えられ、学生の多様な背景とのミスマッチも懸念されたが、より広い概念へ展開され、当初計画を超えた取組と評価できる。プログラム担当の教員自身も、本プログラムによって研究における視野が広がり、異分野の教員との共同研究を開始するなどの当初想定していなかった成果が出ている点も高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、修了者のほとんどが、本プログラムに参加したことにより俯瞰力、企画提案力、コミュニケーション力、国際性などが強化され、さらに、就職及び就職後の仕事にプラスとなったとも感じており、学生の成長に対して本プログラムの有効性は高い。第1期生14名中10名が民間企業に就職しており、第2期生も多くは希望どおりの内定を得るなど、キャリアパスが構築されつつあり、高く評価できる。今後、民間企業に就職した修了者が日本社会の博士人材に対する評価を変えていくことが期待される。

事業の定着・発展については、本プログラムの教育成果も取り入れた全学的な「ダ・ヴィンチプログラム（仮称）」が計画され、一般学生に対する異分野専攻の学生とのブレインストーミングの推奨、GRPの全学への展開などが図られている。事業の定着・発展に向け不可欠である予算の確保については、在籍中の学生については支援期間終了後も現状と同程度の経済的支援を継続する目処がついているとともに、長期的には企業を巻き込むなどの努力が進められており、平成31年度入学予定の第7期生の募集が既に開始されているなど評価できる。また、ほぼ毎年応募者数と合格者数が同数であったように応募者数が少ないことが課題であったが、学部4年生や3年生の早い時期に本プログラム修了者の活躍を直接伝えるなどのキャリアパスガイダンスを行うなどにより意欲のある優秀な学生の確保が期待できる。